

## 令和7年度 庄内南部定住自立圏共生ビジョン懇談会（会議概要）

- 日 時 令和8年1月15日(木) 午前10時から午前11時30分まで
- 会 場 鶴岡市役所 別棟2号館 第21・22・23会議室
- 次 第
  - 1. 開会 : 進行 齋藤企画部政策企画課長
  - 2. あいさつ : 上野企画部長
  - 3. 委員紹介 : 進行 齋藤企画部政策企画課長
  - 4. 会長・副会長選任 : 立候補・推薦が無かったため、事務局案で池田ゆり子委員を会長として提案したところ、委員から承認を得て、会長は池田ゆり子委員に決定した。副会長は池田ゆり子会長の指名により、村上良一委員に決定した。
  - 5. 協議 : 協議資料説明 政策企画課 赤羽
    - (1) 庄内南部定住自立圏共生ビジョン（第3次）の取組及び改定について
    - (2) その他
  - 6. 閉会 : 進行 齋藤企画部政策企画課長

### **協議での意見等**

#### **■医療分野**

##### **○委員**

- ・庄内病院の医師数について、令和7年度までにかかなり増えたと聞いている。庄内病院は基幹病院であるため、定住自立圏における一次医療という観点からも、かかりつけ医として診察される先生の確保も必要であると考えている。
- ・鶴岡地区医師会の会員数は10年前と比べると1割ほど減っており、小児科医については半分ほどになっている。高齢化も進んでおり、今後、急性期医療やかかりつけ医としての機能が回っていくかどうか、また、学校医や乳幼児健診などを小児科医の先生が行っているが、それに今後対応できるか心配な部分がある。
- ・米沢市では米沢市では市内に新規開業する医師に向けた支援を行っているとの報道があった。医療の確保という面では、これまで自然の流れに任せて対応するということしかできなかつたと思うが、一定の診療体制の確保ができない場合には支援が必要になるのではないかと。

→（庄内病院総務課長）

- ・医師の確保については現場においても苦労しており、例えば事業管理者が関係者や出身大学にリクルートしながら確保に努めている。医師の数の調整については県の連絡会議などで議論されているところ。
- ・庄内病院においても庄内看護専門学校において、地元の高校生を巻き込みながら人材を育てていき、南庄内で活動してもらえるような取組を行っている。体験授業やオープンホスピタルなどの取組を通じて高校生に医療の大切さなどを知っていただいたり、市内の高校を回ってこの地域で医療に携わる意義などを講話したりしながら人材育成に取り組み、人材確保に努めている。

## ○委員

- ・休日歯科診療所の件について、歯科医師会の先生も人数が少なくなってきており、現在58名のうち44名で運営している。年末年始にかけては、庄内町の先生方が診療所まで来られないということで、33名で診察していた。
- ・対応できる人数が少なく、先生方の負担も大きくなっており、土曜日に診察して日曜日も対応するとなると容易でないとと言われることが多くなった。また、休日歯科診療所の場合は介助者を1名歯科医院から連れて行かなければならないが、歯科衛生士が現在かなり不足しており、求人を出してもなかなか集まらない状況。歯科衛生士が1人2人しかいない歯科医院だとそれでも連れて行かなければならないので、介助者の方から不満が聞かれているとの意見もある。
- ・歯科は先生と介助者の両方を必ず出さなければならないため、市の方で介助者を出していただければ先生方の負担の軽減につながるのではないかという意見がある。休日何かあった時に受診できるということは魅力的だし、県内でも1箇所しかないため、そういった点を充実していただきたい。また、ゴールデンウィークや年末年始においては会員以外の先生にお願いできないかという意見もあり、検討いただきたい。

→（健康課長）

- ・歯科医師及び歯科衛生士の不足については認識しているところ。休日歯科診療所の運営を委託している休日夜間診療協議会と調整しながらより良い方向を探っていく。

## ■福祉分野

### ○委員

- ・民生児童委員連合会は鶴岡の各民生区と旧町村の民生区の協議会で構成されているが、全体的に70代、80代の世代が多く動きが鈍くなっているとの話が出ている。
- ・町内会長は引き受けても民生委員を引き受けてもらえるということが少ないという状況。こういった状況で、商工会や市のバックアップのもと、会社の若手の方を民生児童委員にさせていただき、活動を支援するような形の支援があればより良いものになるのではないか。

→（福祉課長）

- ・民生児童委員のなり手不足解消について、令和7年度からサポーター制度を導入しており、人材育成に努めているところ。お勤めの方は勤務先の理解も得る必要があることから難しいというお話も聞いており、職場側への働きかけ等の対策について関係課とも協議しながら検討していく。

→委員

- ・商工会でも青年部の人手不足が深刻になっている。民生児童委員への支援については今後検討していきたい。

## ○委員

三川町のテオトルに会議で行ったが、子育て支援センターの相互利用に係る事業費からも読み取れるように、子育てに力を入れているという印象を受けた。若い人が住みたくなるようなまちづくりをしていただきたい。

→（子育て推進課長）

- ・若い子育て世帯からは遊び場が少ないという声を聞いており、テオトルは幅広い年代の子どもたちが利用できる施設ということで、鶴岡市からもたくさんの方が利用していると聞いている。子育て世帯の方々は地元に限らず、遊び場を求めて内陸部等、様々な場所に行っていると認識している。
- ・鶴岡市においても子どもたちの遊び場を整備するということで、令和7年3月に子どもの遊び場の整備方針を定め、地域の資源を活用しながら年齢や性別に関わらず楽しく遊べる場所を整備するということで、現在整備に向けて検討を進めている。

## ■産業振興分野

### ○委員

庄内地域において、農業は経済的な部分以外においても非常に重要であると考えている。育苗施設等農業施設の相互利用の説明の中で担い手が減っているという話があり、それはよく理解しているが、共生ビジョンの中で掲げた事業が現状に合致しているのか、産業内で変化があれば教えていただきたい。

→（農政課主幹）

- ・育苗施設については庄内町が設置しているもので、農協の関連会社が指定管理を請け負っている。設置の経緯から庄内町民に低廉な利用料が設定されているが、本事業において料金格差の補填を行っている。高齢化等の影響で、いずれの品目も生産者、生産面積ともに減少しており、利用状況が目標に達していない。
- ・もう一点の広域育成牧場についても、畜産農家が減っている状況にある。それに加え、牧場に出さず、繁殖から育てるまで一貫して行う経営モデルが拡大していることが要因となっている。放牧場については従来3施設あったものを統合し、効率的に使う取組を進めている。引き続き利用者増につながる取組を行っていく。

### ○委員

KPIの進捗について、C評価が目立っており、厳しい状況だと感じた。人口減少の中、市場規模がなかなか大きくなりづらいが、交流人口や観光インバウンドなどの外とのつながりの中で事業成果を出していくことが重要であると考え。外国人宿泊者数が令和元年度の水準に回復したということだが、今回の改正の中で、さらに高い数字を求めるといったことは無いのか。

→（観光物産課長）

- ・鶴岡市の中期観光戦略プランにおいて、令和10年度の目標を13,000人としていたところ、令和6年度時点でそれ超えた。ビジョンにおける目標は40,000人としているが、令和10年度までの目標を達成したことから、目標の見直しについては内部で議論している。

- ・最近山形県や鶴岡市が海外の雑誌等で行くべき場所として紹介されているので、その点を踏まえ、受け入れ態勢の強化を念頭に置きつつ、関係人口や交流人口の増という視点から目標の見直しは必要だと考えている。

→委員

目標値が現在の数字の3倍ということで、住民への影響がないかということが重要である一方、庄内南部の産業のけん引役として重要な役割があると思うので、そういった観点で事業に取り組んでいただきたい。

○委員

鶴岡市への観光客が急増しているのであれば、庄内町、三川町も含めた庄内のファンになってもらい、リピーターとして色々な、ニッチな場所にも来てもらえたらと思う。関連して、公共交通ネットワークの部分で、現状タクシーの確保が難しいこともあり、ビジネスチャンスではないかと思う。庄内町、三川町と連携して取り組むことで、この会議の意義が一層深まるのではないかな。

→（企画部長）

- ・観光プランや交通計画は各市町で持っていると思うが、それをどのように連携して広げていくかという観点は重要であると思う。来年であれば羽黒山の午歳御縁年があるが、そこから各町へ流れていくという誘導策が生まれてくると良いが、庄内全体でという視点もあるので、関係者と連携して取り組んでいく。

○委員

- ・林業の振興と木質バイオマスの利用促進について、実施状況とその評価を見ると、鶴岡のバイオマス発電所のみ記載となっている。他にも活用しているので、全体的な数値を把握して、この課題の取組を進めていただきたい。
- ・観光との関連になると思うが、庄内海岸部で松枯れが広がっている。森林組合でも対策に取り組んでおり、予算もついているが、人手不足により組織体制が追い付いていないことが原因で広がっているという認識。農業や地域住民、庄内空港を守っており、大切な役割を果たしている。行政や関係団体等でプロジェクトを作り対策を話し合っていると思うが、観光にも影響があると思うので、庄内南部定住自立圏域でも取り上げ、取り組んでいただきたい。

→（農山漁村振興課林業振興主幹）

- ・木質バイオマスについて、木材の地域内循環を目標としている。市ではC・D材の生産量は把握しているものの、それらが地域内のバイオマス施設へ誘導されているかという点は把握しきれていない。利用量全体の把握について、今後検討していく。
- ・松くい虫の被害について、これまでは伐採することで対応してきたが、松が減っていくとご指摘のとおり農業や市民生活に影響があるものと認識している。再生に向け、植林を増やしていきたいと考えている。

#### →吉田直之委員

- ・害虫の防除だけではないが、現場において労働者を募集しても人がなかなか集まらず、また、辞めていく人が増えており、組織体制が整わない状況。地域の他の産業でも同様の状況だと思うが、行政から引き続き支援いただきたい。

#### →（農山漁村振興課林業振興主幹）

- ・こういった状況を受け、令和5年度からは出前授業を行ったり、WAKU WAKU WORKなどの職業体験会に参加したりなど、各中学校、高校、専門職大学を訪問しPRを行っている。高校生の声を聞いた時、林業の現場の状況は農業や水産業よりもイメージがわからないという意見をいただいたところ。今後も出前授業等を継続し、林業に興味を持ってもらえるように取り組んでいく。

#### ○委員

- ・農業においても人手不足、後継者不足の状況にあるが、最近では販売価格に反映されてきており、消費者からも認知されてきたと理解している。これにより、設備投資できず廃業を検討していた農家もある程度続けられるようになってきていると認識しているので、価格転嫁がうまく進み、続けられるようになると良い。
- ・また、農家の方々も次世代に繋げられるかと思うので、新規就農者の育成ということも含め、農産物の価格についての考え方をPRできればと考えている。

#### →（農政課主幹）

- ・昨今の価格転嫁について、消費者側と生産側とで望ましい価格に差異はあるが、非常に価格が安かった時と比べると、農業の後継者を確保するという点で追い風になっている状況にあると認識している。新規就農者を増やす取組についてはこれまでも各団体と一緒に取り組んでいるところであるので、今後とも連携していきたい。

#### ○委員

- ・県内就職率が低く、鶴岡でも県外に進学して戻ってくる人が少ないという状況。鶴岡をはじめとした庄内がいかにも良いところかということ、伝えていけるようにしていきたい。
- ・人手不足に関連して、インバウンドを盛り上げたとしても宿泊施設の従業員や観光業に従事する人がいなければ対応できないということが予想できる。少子高齢化に伴う人手不足などの問題は、5年後どうなるかを想像するととても恐ろしい。オーバーツーリズムでインバウンドが押し寄せている地域では土地が高騰して住めなくなっている状況もある。どこまで誘致してよいのか、基準も大事であると思う。
- ・コメの価格高騰については、担い手不足についても課題であると思うので、県外等から新規事業で鶴岡に来たり、企業としてやれるような形ができればと思う。農業の振興も大切だが、水田として保っていくことも大切だと思う。
- ・田はある程度機械化できているが、一方で畑は荒れている印象。田を貸した際に畑も一緒に貸せるような制度設計をしてほしい。
- ・わんぱく農業の取組についてPRしていくとの記載があるが、食文化創造都市であるので、その点とつなぎ合わせた取組をしていけたら良いと思う。

→（観光物産課長）

- ・観光について力を入れるということは、地元住民のシティプライドを高めることや、外に出た人が故郷に愛着を持って戻ってきてもらうという側面も大事であり、もう一方で外から来た人にお金を落としてもらおうということも非常に大事である。
- ・インバウンドを含めた観光客が、一泊二泊と長く滞在してもらい、広域観光や日本遺産をじっくり見てもらうなど、観光プランをしっかりと練ることも重要だと考えている。宿、体験、お土産など、地元の産業に貢献していただくことで、厳しい時代でも続けていくことができるものだと思う。令和8年は観光面で好機の年であるので、国内外からしっかり人を呼び込んでいきたい。

## ○委員

松枯れの話に関連して、地元で強風により隣の家の木が倒れてきたということがあった。松林が防風の役割を果たしており、それが無くなると風向きも変わり、庄内全域に海から強風が吹いてくるため、地域住民にも影響があるものと思う。植林という話があったが、長い目で見るものだけでなく、早急に対応しなければならないこともあると思うので、十分検討してもらいたい。

## ■地域内外の住民との交流・移住促進分野

### ○委員

婚活対策について、KPIの進捗がA評価になっている。地元就職や、Uターンなど若い人たちが増えるようなまちづくりが大事だと思う。

→（地域振興課長）

婚活イベントについては庄内支庁と一緒に開催しており、今月はメタバース婚活を開催予定。KPIについてはイベントの回数で掲載しているが、実績も重要であると思うので、各町とも連携して、イベントの回数だけでなく実績も増やしていければと考えている。

## ■その他

### ○委員

中学校の部活動について、令和8年から土日は活動しないということになっているが、地域のクラブに中学生が参加した際、親の協力がないと移動ができないということがあがる。また、将来的に部活動が無くなり地域のクラブに移行した場合は、ますます親の助力が必要になると思うので、検討していただきたいと考えている。

→（学校教育課長）

- ・休日部活動の地域以降については、庄内町と三川町を含めた田川地区全体で令和5年度から進めてきており、休日の活動については部活動ではなくスポーツ少年団や総合型地域クラブという形で、地域の方の協力を得ながら活動機会を確保している。
- ・国の方針も示されたが、今後通知される内容を踏まえ、保護者の負担軽減や子どもたちの活動機会を保障するという視点での検討を継続していく。

## ○委員

- ・鶴岡市では市議会議員選挙で定数を大きく超えた立候補があり、様々な意見やアイデアを持ったこれまでとは違った人材が立候補していたという印象。そういった人や、やる気のある人が育つ庄内南部地域に繋げていければと思う。
- ・小学生の子どもがいるが、ソライの無償利用が鶴岡市以外の庄内地域全体にも拡大されたのが良かった。こういったアイデアを持つ起業家が育つようなビジョンをこれから検討していけると良い。

以上

# 庄内南部定住自立圏共生ビジョン懇談会委員名簿

敬称略

関係分野	No	所 属	職 名	氏 名	備考
医療	1	鶴岡地区医師会	事務局長	土屋 清光	
	2	鶴岡地区歯科医師会	会長 代理：事務長	清野 肇 代理：大須賀多美子	
子育て	3	鶴岡市民生児童委員協議会 連合会	会長 代理：常務理事	阿部 和廣 代理：五十嵐和喜	
福祉	4	鶴岡市社会福祉協議会	会長	阿部 真一	欠席
産業振興	5	鶴岡市農業協同組合	理事参事	前田 資生	
	6	庄内たがわ農業協同組合	代表理事専務	小林 馨	欠席
	7	赤川漁業協同組合	代表理事組合長	長谷川 幸吉	欠席
	8	鶴岡商工会議所	事務局長	七森 玲子	
	9	出羽商工会	事務局長	池田ゆり子	
	10	出羽庄内森林組合	参事	吉田 直之	
	11	一般社団法人 DEGAM 鶴岡ツ ーリズムビューロー	事業課長	押井 和春	欠席
	12	庄内地域産業振興センター	常務理事（兼） 事務局長	村上 良一	
13	鶴岡青年会議所	専務理事 代理：専務	加藤 大貴 代理：上野直紀	欠席	
住民代表	14	東北公益文科大学大学院	公益学研究科長	武田真理子	
	15	鶴岡市社会教育委員	委員	大久保紀子	
	16	三川町審議会	委員	大川 里美	欠席
	17	三川町審議会	委員	辻村 利則	
	18	庄内町振興審議会	会長職務代理	佐藤 道子	
	19	庄内町行政改革推進委員会	副委員長	原田 周子	欠席